

平成 29 年 5 月 17 日

全学学類・専門学群代表者会議

座長団 各位

全学学類・専門学群代表者会議

議長 鈴見 祐悟

大括り入試に伴う制度の改革について

1. 「大括り入試」の概要とクラス制度の変更

「大括り入試」は平成 31 年度入試制度（2019 年度入学）より導入が決定している新しい入試方法である。この入試方法は前期入試と後期入試において実施される予定であり、各種推薦入試については現行のままである。現行の入試方法では志願者は志願する学類・専門学群を決めて受験を行うが、大括り入試では志願者は「文系」「理系」「文理共通」の 3 つの志願先を選ぶ。入学後は 1 年生で「教養課程」を履修し、2 年生になる際に志望する学類を選び、それ以降は各学類に分かれて履修、研究を行う。

クラス制度に関しての詳細は未定である。現状決定していることとして、1 年生は入学時にクラスに分かれ、2 年生以降に学類に分かれた際に再度クラス編成が行われる。

2. クラス制度変更の必要性

現行のクラス制度では各学類・専門学群の単位で編成が行われている。先に記した変更により編成方法の変更が必要となる。

また、クラス代表者から構成されるクラス代表者会議も、1 年生は学類に所属しないことから制度変更が必要となると考えられる。

3. 議長団の方針

議長団としては、「大括り入試」の定員や入試方法については大学側の方針に従うことを考えている。また新たに決めるべきクラス制度や学類の枠がなくなることによるクラス代表者会議、座長団のシステム変更を学校側に提案していく所存である。